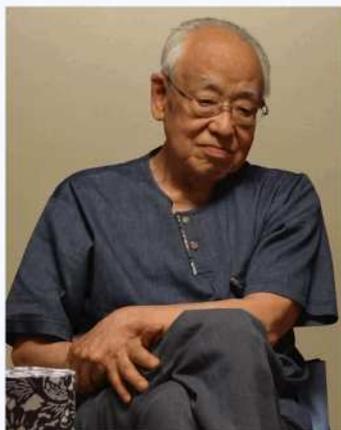


「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」の10年間（2011-2020）



富澤 純一 博士

国立遺伝学研究所名誉教授。日本分子生物学会学会誌Genes to Cells初代編集長（創刊1996年～2005年）。
日本分子生物学会名誉会員（なお本学会の名誉会員は富澤博士を含め過去3名のみ）。

本学会は、2010年に富澤純一博士〔2017.1.26逝去〕と故・桂子夫人のご厚意を受け「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」を立ち上げ、2011年から2020年までの10年間、若手研究助成事業を行ってきました。第1回からこの間、延べ1,197名の応募をいただき、合計50名の方々に助成しました。当基金・本事業の目的とするところは、生命科学の新しい展開を目指す研究を志しながらも、研究費の欠乏や生活上の制約などを抱える若手研究者に、用途を限定しない助成を行って、研究の発展を可能にさせることでした。審査にあたっては申請者独自の問題設定や研究の進め方を重視し、申請者の個性に裏打ちされた独自性の高い提案を選んできました。その結果、多くの優れた成果が得られ、新たな分野も拓きつつあります。

そこで、10年の本事業の終了にあたって、助成対象者となられた方々の研究を一堂に集めたメモリアルイベントを企画しました。単に優れた成果を紹介するだけではなく、若手だからこそできる独自の研究の重要性を共有することにより、これからの若手研究者の皆様の一層の活躍につながる場にできればと思います。

富澤基金・第3期基金運営委員会

委員長 小原 雄治
副委員長 林 茂生
理事長 白髭 克彦
第44回年会長 塩見 美喜子

■特別ワークショップ

『若手研究者が拓く生命科学の新時代：富澤純一・桂子基金に支えられた10年間』

New Era of life science pioneered by young researchers: Ten Years of support through Tomizawa Jun-ichi & Keiko Fund

○日時：2021年12月2日（木）17:30～19:25

○会場：第11会場（パシフィコ横浜 会議センター4階 414・415） / オンライン

オーガナイザー：丹羽隆介（筑波大/司会・第1回助成）、坪内知美（基生研/司会・第3回助成）、小原雄治（遺伝研）、林茂生（理研）

予定演者：久原篤（甲南大/第1回助成）、宮成悠介（金沢大/第4回助成）、進藤麻子（熊本大/第5回助成）、

田尻怜子（東大/第7回助成）、星野歩子（東工大/第10回助成）

■歴代若手研究助成対象者によるポスター発表コーナー

第1回～第10回の助成対象者にポスター発表を依頼し、ポスターは会期中を通して会場内の特設コーナーに掲示いたします。

会期2日目午後的一般演題ポスターセッションの時間帯に、この特設コーナーでもポスターセッションを行います。

○会場：ポスター・展示会場 / オンライン

○ポスターセッション：2021年12月2日（木）13:00～15:30

助成対象者（研究題目は助成当時のもの）

<p>■第1回（2011年）</p> <p>植木 紀子 緑藻ボルボックス目の多細胞化に伴う走光性の進化：改良トランスポゾンタギング法による機能欠損変異体作製と遺伝子機能解析</p> <p>大澤 志津江 細胞競合の分子機構の遺伝学的解析</p> <p>久原 篤 線虫C. エレガンスをもちいた環境情報の識別と適応の分子機構の解析</p> <p>佐野 浩子 ショウジョウバエのfat bodyを用いた脂質代謝制御および内分泌機能の解析</p> <p>茶谷 絵理 アミロイドシスの伝播を担うアミロイド自己複製反応機構の解明と制御</p> <p>丹羽 隆介 セロトニン産生神経依存的なステロイドホルモン生成制御と発育プログラム上の適応的調節</p>	<p>■第6回（2016年）</p> <p>大谷 美沙都 植物のロバスタな細胞形質発現を支えるRNAを介した環境応答システムの解明</p> <p>大畑 樹也 転写にとまらぬ条件的ヘテロクロマチン形成機構の解明</p> <p>尾崎 省吾 バクテリア細胞周期を駆動する遺伝子群が織りなすネットワーク</p> <p>倉石 貴透 ショウジョウバエモデルを用いた無菌的な自然免疫活性化機構の解明</p> <p>島田 裕子 栄養と発育をつなぐ神経内分泌機構の研究</p> <p>檜本 悟史 オーキシン排出担体PINの極性局在を制御する細胞膜ドメイン形成機構の解析</p>
<p>■第2回（2012年）</p> <p>伊原 伸治 基底膜の穴を制御する遺伝子の同定と分子機構の解析</p> <p>王 丹 RNA転写後制御の時・空間解析による神経回路制御機構の解明</p> <p>鈴木 崇之 脳内の中枢シナプス結合と可塑性をコントロールする決定因子の解明</p> <p>宮田 淳美 マウス細胞内における28S rRNA上に生じた紫外線損傷の修復</p> <p>山崎 正和 平面内細胞極性を司る新規調節機構の解析</p>	<p>■第7回（2017年）</p> <p>片岡 研介 テトラヒメナの核の二重化から明らかにするゲノム不安定性の基本原則</p> <p>高瀬 比菜子 細胞間シグナル伝達による精子幹細胞の増殖制御機構の解明</p> <p>田尻 怜子 ECMの変形を介した体型制御のメカニズム：ショウジョウバエ外骨格を例として</p> <p>二橋 美瑠子 カメムシの分散型動物体の分子基盤と進化</p> <p>山口 知也 ROR1による生体膜ダイナミクス制御機構の解明</p>
<p>■第3回（2013年）</p> <p>小島 志保子 Poly(A)鎖長の変化による神経可塑性制御機構の解明</p> <p>竹ヶ原 宜子 破骨細胞融合メカニズムの解明</p> <p>坪内 知美 胚性幹細胞のゲノム恒常性維持機構の解析</p> <p>松田 憲之 パーキンソン病の発症メカニズムを、急性ミトコンドリア障害の観点から明らかにする</p>	<p>■第8回（2018年）</p> <p>小田 裕香子 バリア形成機構の解明</p> <p>久保 郁 視覚情報処理を制御する神経回路の機能と結合様式の解明</p> <p>後藤 彩子 アリ科女王の長期間の精子貯蔵機能に関与する分子の特定</p> <p>深谷 雄志 エンハンサーによる転写制御ダイナミクスの統合的理解</p>
<p>■第4回（2014年）</p> <p>木下 奈都子 環境ストレス下において負の因子として機能している長鎖非コードRNA、NPC60がどのように正の鍵因子であるbZIP型転写因子ABI5を制御しているのか、その分子機構の解明</p> <p>濱田-川口 典子 Btk29A非受容体型チロシンキナーゼによる卵巣腫瘍抑制機構の解明</p> <p>水本 公大 動物の動きを規定する分子基盤の解明</p> <p>宮成 悠介 核内ゲノム動態による転写制御機構の理解</p>	<p>■第9回（2019年）</p> <p>伊藤 美菜子 中枢神経系疾患における脳Tregの発生機構と神経修復機構の解明</p> <p>奥村 美紗子 光忌避行動の分子・神経基盤の解明</p> <p>小幡 史明 熱耐性の代謝基盤</p> <p>鈴木 郁夫 ヒト大脳皮質の進化を駆動した分子発生物学的メカニズムの探索</p> <p>高岡 勝吉 マウス胚における対称性の破れ</p>
<p>■第5回（2015年）</p> <p>小原 圭介 細胞膜脂質非対称性の感知機構と細胞応答の解明</p> <p>進藤 麻子 細胞集団の不均一性を基盤とする組織形態の確立・維持機構</p> <p>丹羽 伸介 感覚受容細胞の形づくり</p> <p>宮腰 昌利 原核生物における mRNA の3'末端から生成する small RNA による転写後調節</p> <p>村山 泰斗 ゲノム安定性に必須の Smc5/6 複合体の機能解析</p>	<p>■第10回（2020年）</p> <p>岡本 直樹 神経・内分泌系による発生過程における生得的行動調節機構の解明。</p> <p>古藤 日子 アリの社会的な養育行動を介した表現型多型制御メカニズムの解明</p> <p>金 尚宏 カルシウムクロック：概日時計の普遍原理の追求</p> <p>田淵 理史 アルツハイマー病の治療標的探索に向けた睡眠剥夺依存性な神経細胞の過剰興奮機構の解明と制御</p> <p>藤井 壮太 植物の生殖初期過程における同種選択の分子メカニズム</p> <p>星野 歩子 がんにおけるエクソソームのプロテオミクス：がん診断バイオマーカーの解析</p>